

市立幼稚園就園奨励金 陳情署名の行方

第一回委員会 陳情趣旨説明

六月議会の前日までに、「市立幼稚園就園奨励費市単独自の回復を求める陳情」署名千有餘筆が、議事事務局に提出された。

この陳情を受け、六月議会終了後の七月九日、文教消防委員会が開かれた。構成委員は委員長榎井、副委員長馬場、委員金澤、甲斐、石田、弓場氏の六名。また、当日は七、八名の一般傍聴者も参加した。

委員会では幼稚園就園奨励費を回復させることの代表から陳情の趣旨説明があった。陳情の趣旨は、「現在、国をあげて少子化対策が行われている中、三島市も子育て支援の重要政策として取り組んできたものを、充分な背景も説明しないまま、市長判断で一方的に打ち切るのには納得できない」というものである。

当初は、該当する母親も参加し、

奨励金の使用道についての説明もあった。この日は、陳情の訴えを聞き、委員会でのように受け止めるかについて議論された。

議員の中には、「この制度は、平成十七年に三島市の子育て政策の基本政策をつたった「エンゼルスマイル」にも載せられ、幼稚園就園児の保護者に対して『経済的負担の軽減に努める』とつたっており、事前に十分な説明も無くカットするのはおかしい」との声もあった。しかしその一方で、陳情の代表者が幼稚園関係者ではないと、奨励費が母親の洋服代に使われているのは理解できない等の意見も出された。

第二回委員会 市長説明

七月三日、第二回目の文教消防委員会が傍聴者十数名の見守る中で開かれた。冒頭、小池市長による説明が行われた。その趣旨は、用意した資料を具体的に説明しながら、「三島市の子育て支援策は、近隣市町に比べて各方面で進んでおり、決して引けを取るものではない。今回の就園奨励金は、年収六八〇万以上の高所得者に対するカットで、それを不妊治療や子育て支援センター増設費に回した。子育て支援全体ではむしろ予算は増えている」という説明だった。

最初に質問に立った弓場議員は平成十七年に策定された「三島市幼児教育振興プログラム」を取り上げ、その中に「保護者等への経済的負担の軽減を図る」とあることを指摘した。それ以降、仕事柄いろいろ人と約束し合うことが多くなったとのこと。約束は合つた人の都合に合わせて、生活時間そのものも食事時間も不規則になってしまいました。特に夕食時間がとても遅くなりがちだといひます。胃腸など消化器は器質的にいかなら問題がないのに、胃部膨満した。でも依然としてお腹の調子が悪い日が続いています。見たところいわゆるメタボリックシンドロームや「リンゴ型肥満」ではない、「便通を良くする」ため野菜中心の食事をしているのに、とのこと。そこで、生活全般についてお聞きしたところ、一つ問題のあることが分かりました。彼は三月までいわゆるサマージョーマンでしたが、この四月に自営業に転身しました。

の適正化という事項があり、アとして「就園奨励事業の充実」がわざわざ項目を挙げて示されている。プログラムは一〇年先を見通して作られたのではないか、それなのにこれを作成した「懇話会」にも諮らず、三年も経たないうちに、市長の独断で一方的にカットしたのはやはり問題で、回復すべきだと詰め寄った。

しかし市長は、カットの判断は市長裁量の範囲内として譲らず。プログラムの見直し手続は総合的判断で、その都度必要に応じて市長判断でやるとの、強引とも思える姿勢を通じた。

更に、弓場議員が子育て支援センターの利用実態について質したところ、九ヶ所から十一ヶ所に増やしたが、本町タワーは賑わっているが、他の方は宣伝が行き届かないためか、利用率はまだ良くないとの返事。

また、奨励費カット問題を「市の広報」に何故載せなかったとの問いには、担当者には載せるよう指示したが、係りが載せなかったと、責任を転化するような市長答弁だった。

馬場議員からは、陳情の代表者が幼稚園関係者でないことや、奨励費の二万円が目的外に使われている事等を取り上げ、陳情には賛成出来ないとの発言があった。

しかし、代表者が幼稚園関係者でなければならぬ意味がどこにあるのか、そんなことを問題にするにはどのような雰囲気や会話をしながら食べるのかというような、栄養とは関係のないと思われることが実は健康と密接な関係があるのです。田島さんの場合、夕食時間が不規則で、夜遅く食えることが胃腸の働きやお腹の調子に悪影響を与えているのではないのでしょうか。食べ物を消化、吸収するためにインスリンというホルモンが必要ですが、でも食事時間が不規則だと、インスリン分泌が乱れてしまいます。これを解消するためには三食を決まった時間に一定量食べる事です。そうすればインスリンもスムーズに分泌され、消化もつまく行き、快便につながる言えます。

市議会傍聴 奮戦記

四月からスタートされたという三島市の窓口では、問合せが数十件申請件数は二件(七月三日現在)夫婦の収入には上限はないという。ことだが、補助金は最高十万円(治療費が二十万円を超える場合)申請など手続きに出掛けるのは、女性が大半を占めると思われるが、結婚生活の中でお子さんを授かるまでのデリケートな時期に、市の窓口で市民の陳情・請願権を否定することにもつながる。また、奨励金の使用道は、単に、家計内の経費の割振り問題であり、他人がとやかく言う筋合いのものではないことは明らかだ。

陳情は委員会否決
その後、傍聴者を締め出し、裁判が行われた。石田議員は欠席、陳情に対する賛成は弓場議員一人だけ、委員会では反対多数で否決された。

市議会傍聴 奮戦記

スタートをしていただければ、行政側でのしつかりとした(基本的な内容を含む)対応を望みます。(制度を知らない方がいたら、教えてあげてくださいね。ありがた迷惑と思われぬ程度に...) またまた、議会での内容では、お伝えしたいことがあるけれど、また次回に... 三島市在住 子沢山 CHIEEより

市議会傍聴 奮戦記

最低賃金の抜本的引上げを求める意見書案
提出者 共産党(反対) 緑・新・公
最低賃金法の見直しと最低賃金の大幅引き上げを求める意見書案
提出者 静岡県労働組合連合会、静岡県労働組合連合会(反対) 緑・新・公
JR不採用問題の早期解決を求める意見書案
提出者 国労組合(反対) 緑水・新未来
日豪EPA/FTA交渉に関する意見書案
提出者 県農市民会議(反対) 新未来

市議会傍聴 奮戦記

「改革」路線を推し進めてきた。しかし、気が付けば都市と地方の格差は拡大し、若者の雇用先は殆どが派遣企業が臨時・パートの非正規雇用。所得格差は広がるばかりで、結婚も子供をもつこともできなくなる。その一方で、大企業・富裕層には減税、庶民には増税、小池内閣時代に「恒久減税」として導入された「定率減税」はあつさり廃止され、六月の給料を受け取ったサラリーマンは、地方税の大幅増加に怒りは膨れあがっていた。

所詮、「お坊ちゃん」育ちの安倍首相には庶民の暮らしなど分かるはずが無い。政権発足当初より、国民生活には目もくれず、「戦後」ジニムからの脱却、「美しい国」などと意味不明の謳い文句をぶち上げて、「憲法改正を最大の政治課題」として、教育基本法の改悪やその他の悪法を強行可決してきた。そして、そのついでに廻ってきた。庶民は拍手喝采だ。

この大敗を受けても、自分の置かれた立場を理解していないタダ子よしく、尚、続投すると本人は言い続けている。あきれたものだ。しかも、自分の進める政策や、「改革」は間違っていない、自分には責任の無い、「年金問題」や閣僚の失言が足を引っ張っているだけだ...。何というお坊ちゃんだ!

交差 田島さん

田島さんは五八歳男性、中肉長身、自営業。二〇〇一、一ヶ月といつも腹部膨満感が続き、便通も五日に一度くらいしかないといひます。心配になって病院にかかり検査をしたところ、「異常なし」といわれました。でも依然としてお腹の調子が悪い日が続いています。見たところいわゆるメタボリックシンドロームや「リンゴ型肥満」ではない、「便通を良くする」ため野菜中心の食事をしているのに、とのこと。そこで、生活全般についてお聞きしたところ、一つ問題のあることが分かりました。彼は三月までいわゆるサマージョーマンでしたが、この四月に自営業に転身しました。

当世風養生訓 その1

満感や便秘という機能面で問題があると言つたことになりす。原因として考えられるのは不規則な食事時間という「食生活」です。人はともすると、栄養さえ考えれば健康が保たれる、というように食事の質と量だけに目を奪われがちです。何時にどんな場所で、誰とど

川柳歌壇

寝苦しき布団の湿気夢浅く
改憲にムチ打ち進めど落馬する
ジョンビルを煽り進めば出来るはず
自公よりまだましに見え一郎か
隠滅し今更証拠と空とボケケ
つらめしや恋しき国に叩かれて
皇国の恋しき人よ亡き祖父は
大波が次々迫る安普請
初大臣色香濃く防衛官
刺客旅一夜の宿の防衛官
親分がこければ雑魚は霧散する

六月議会意見書

陳情書提出
意見書について
一 異常気象による災害対策や地球温暖化対策の強化・拡充を求める意見書案
提出者 公明党(全賛成)
二 「マザー・スローン」(仮称)設置の早期実現を求める意見書案
提出者 公明党(反対) 緑水・新未来
三 医師不足を解消し、安心できる地域医療体制の確保を求める意見書案
提出者 公明党(反対) 緑水・新未来
四 「消えた年金問題」の早急な解決を求める意見書案
提出者 共産党(反対) 緑水・公明新(未来)
五 子ども医療費助成制度の創設を求める意見書案
提出者 共産党(反対) 緑水・公明

市議会傍聴 奮戦記

「選挙で勝てる顔」として、党内で圧倒的な支持を集めて安倍政権は発足した。これまで、国際競争力のためと称し、構造改革、規制緩和等を謳い文句に、いわゆる彼らの「改革」路線を推し進めてきた。しかし、気が付けば都市と地方の格差は拡大し、若者の雇用先は殆どが派遣企業が臨時・パートの非正規雇用。所得格差は広がるばかりで、結婚も子供をもつこともできなくなる。その一方で、大企業・富裕層には減税、庶民には増税、小池内閣時代に「恒久減税」として導入された「定率減税」はあつさり廃止され、六月の給料を受け取ったサラリーマンは、地方税の大幅増加に怒りは膨れあがっていた。

市議会傍聴 奮戦記

「選挙で勝てる顔」として、党内で圧倒的な支持を集めて安倍政権は発足した。これまで、国際競争力のためと称し、構造改革、規制緩和等を謳い文句に、いわゆる彼らの「改革」路線を推し進めてきた。しかし、気が付けば都市と地方の格差は拡大し、若者の雇用先は殆どが派遣企業が臨時・パートの非正規雇用。所得格差は広がるばかりで、結婚も子供をもつこともできなくなる。その一方で、大企業・富裕層には減税、庶民には増税、小池内閣時代に「恒久減税」として導入された「定率減税」はあつさり廃止され、六月の給料を受け取ったサラリーマンは、地方税の大幅増加に怒りは膨れあがっていた。

パソコン修理

OSの再インストール、ウイルス汚染でお困りの方お気軽に連絡下さい。
連絡先：090-5009-3640(堀)

エクソンモバイル代理店

三島屋商店株式会社
自動車ガソリンは 三島徳倉SS
TEL:055-988-1705

楽々パソコン教室のご案内

毎週水曜日、生涯学習センター5F(パソコン室)
午後7時~8時半まで、1回1000円、月4千円
【個別指導対応】パソコン修理も引き受けます。
ワード、エクセル、デジカメ、画像処理、ホームページ作成、VBA、ネットワーク、その他
連絡先:055-986-1301(勝俣)